

戦前の東大阪地域における産業道路整備と工場立地

— 『全国工場通覧』、『布施市土地宝典』による分析 —

大阪産業経済リサーチセンター 主任研究員 松下 隆

戦前の東大阪の工業集積加速要因である産業道路整備と企業の立地の関係性について分析し、結果、産業道路が開通した1936(昭和11)年以降に布施市域において工場数が急増すること、それらが鋳物業、金属工業等であることを名簿データと地図データを組み合わせることで明らかにした。

研究目的と手法

本稿では、東大阪地域で工場立地が盛んとなり始めた戦前の昭和初期に焦点をあて、立地を促進させた道路整備について、工業集積の成り立ちの端緒を明らかにする。

資料としては、商工省編著『全国工場通覧』の1933(昭和8)年版、1937(昭和12)年版の工場数と名簿データを分析した。

また、地図データとして、1938(昭和13)年に刊行された大日本帝国市町村地図刊行会『布施市土地宝典』、各年度版『国土地理院地図』を使用する。『布施市土地宝典』は、1937(昭和12)年6つの町と村が合併して布施市が誕生した翌年に発刊されたものであり、前年の1936(昭和11)年に開通した産業道路(「布施枚岡線」)整備後に立地した工

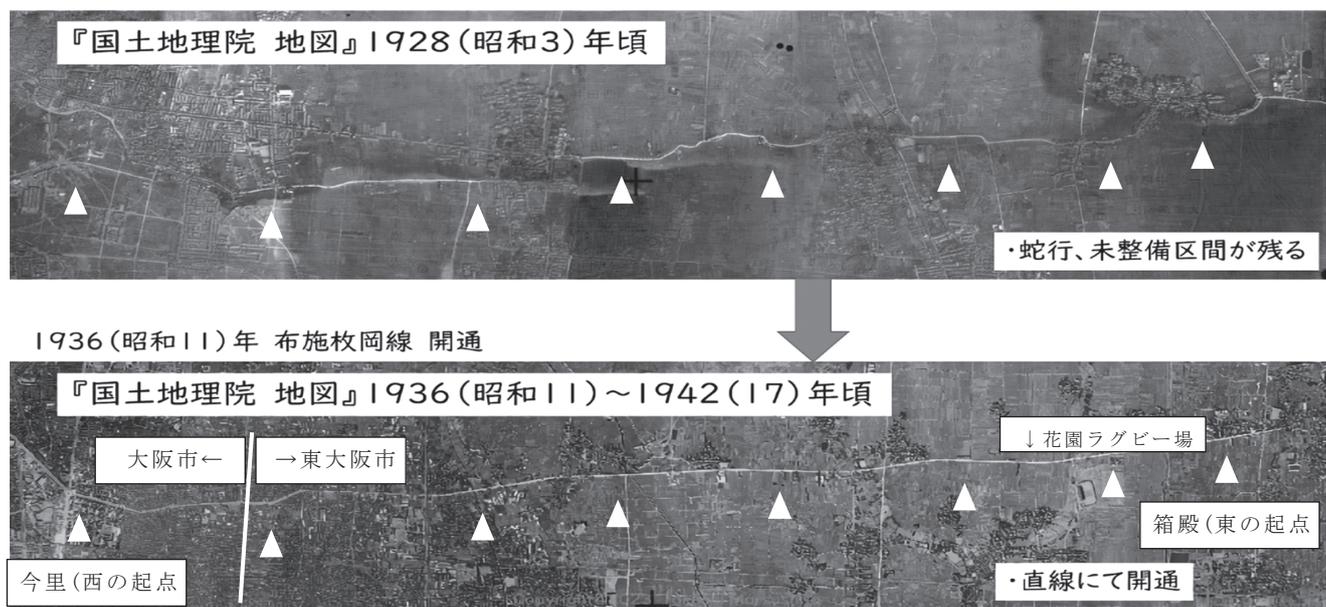
場を掲載しているため有用である。

東大阪工業集積の成立と産業道路の整備

生駒山麓では斜面の水流を利用した水車による動力での鉄素材の伸線加工業が勃興し、高度な技術を形成し始めた。大正時代に入り、動力供給面で大きなイノベーションが起こる。当時の大日本軌道(現、近畿日本鉄道)の電力供給事業による電力の普及が鉄道沿線では始まったのである。電力の普及はそれまでの工業生産を革新的に変化させ、工作機械が電化することで、生産性は飛躍的に向上した。

電化によるインパクトは大きなものであったが、地域における工場の集積を誘引するかは道路整備を上回るほどでなかった。東大阪市域の道路は低

図表1 地図に見る産業道路の整備



出所:「国土地理院地図」サイト

*:△マークは筆者加工による

湿地に点在する村落を結ぶものであり、大消費地で製造拠点でもある大阪市域と生駒山麓地域を繋ぐ直線的な道路が無いという課題があったためである(図表1)。

産業道路の整備と工場立地分析

○名簿データ『全国工場通覧』から分析

名簿データからは、産業道路開通後、布施市域では金属工業をはじめ複数業種で工場数が急増したことがわかる(図表2)。

図表2 布施地域、生駒山麓地域の工場数変化

	布施地域計					生駒山麓地域計						
	1929(昭和4)年	1933(昭和8)年	1936年	1937(昭和12)年	1929年→1933年増加率(%):整備前	1933年→1937年増加率(%):整備後	1929(昭和4)年	1933(昭和8)年	1936年	1937(昭和12)年	1929年→1933年増加率(%):整備前	1933年→1937年増加率(%):整備後
A 紡織工業	19	16	産業道路開通	37	-15.8%	131.3%	3	4	産業道路開通	6	33.3%	50.0%
B 金属工業	23	40		143	73.9%	257.5%	16	19		94	18.8%	394.7%
C 機械器具工業	2	21		89	950.0%	323.8%	8	6		17	-25.0%	183.3%
D 窯業	4	3		5	-25.0%	66.7%	0	0		0	-	-
E 化学工業	25	29		100	16.0%	244.8%	4	5		13	25.0%	160.0%
F 製材・木製品工業	2	2		7	0.0%	250.0%	0	0		1	-	-
G 印刷・製本業	0	1		1	-	0.0%	0	0		1	-	-
H 食料品工業	0	2		4	-	100.0%	0	0		1	-	-
I ガス・電気業	0	0		0	-	-	0	0		0	-	-
J その他工業	26	36		69	38.5%	91.7%	1	0		18	-100.0%	-
計	101	150		455	48.5%	203.3%	32	34	151	6.3%	344.1%	

出所：衣本肇彦(2003)、p.19を一部加筆
原典：商工省編纂「全国工場通覧」

○地図データ『布施市土地宝典』からの分析

また、地図データから以下の工場名を確認できた。下線の「大八化学工業所」は現在も操業を確認できた工場である(図表3・4)。

図表3 『布施市土地宝典』道路近接工場一覧

区画	地域	地番	工場名	業種
区画1	足代北2丁目	69	桑名商店布施工場	金属工業
	長堂1丁目	65	滝沢鉄工所	金属工業
区画2	長堂3丁目	2	青木鋳造所	鋳物業
		11	西森鉄工所	金属工業
		52	安達鉄線亜鉛鍍金工場	金属工業
		54	大八化学工業所	化学工業
		81	東邦工作所	金属工業
区画4	高井田西1丁目	14	尾形鉄工所	金属工業
	高井田本通1丁目	6	昭和亜鉛鍍金工場	金属工業
		16	上島金属製作所	金属工業
22	福岡工業所	金属工業		
区画5	高井田中2丁目	7	中村鋳造所	鋳物業
		12	合資三輪鋳造所	鋳物業
		24	日本ペン先(株)第2工場	金属工業
	36	箕浦機械(株)	機械器具工業	
高井田中3丁目	6	藤本金属工場	金属工業	

出所：大日本帝国市町村地図刊行会(1938)『布施市土地宝典』を元に筆者作成

図表4 長堂3丁目の立地工場



出所：大日本帝国市町村地図刊行会(1938)『布施市土地宝典』

本稿のまとめ

第1に、1936(昭和11)年の産業道路の開通以後、道路に沿って工場が集積する。特に布施市域において顕著に工場が増加したことが確認できた。これより、産業道路開通が大阪市に隣接する布施市域における工場増加と関連づいていることを追認した。

第2に、名簿データから大阪隣接地域では、産業道路整備後の昭和12年当時、布施市域において鋳物業と金属工業、セルロイド工業が集積したとする衣本(2003)の分析内容を、地図データでも追認した。

これら2点から、産業開発に必要な産業道路として、自動車輸送の円滑化を目的に古くからある「布施枚岡線」が整備されたことで、大阪市域から工場のスピルオーバーを促進させ、道路に沿ったエリアで西から東への工場増加の起爆剤となったと結論付けることができよう。



報告書の内容(全文)は、大阪産業経済リサーチセンターのウェブサイトからご覧いただけます。